

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

平成27年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

平成27年度病害虫発生予察注意報第5号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類(イネヨトウおよびカンシャシクイハマキ)
- 3 発生地域 八重山群島

4 注意報発令の根拠

- (1) 石垣島における3月上旬の巡回調査の結果、株出ほ場および新植夏植ほ場における芯枯茎率は8.4%（前年4.1%、平年2.2%）と平年より高かった（図1、4、5）。
- (2) 3月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は10.5頭（前年4.0頭、平年4.9頭）と平年より多かった（図2）。
- (3) 3月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.7頭（前年2.4頭、例年6.0頭）で例年より少なかった（図3）。

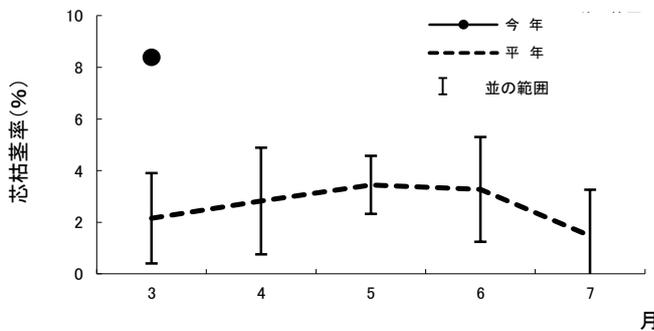


図1 石垣島における芯枯茎率と平年の推移

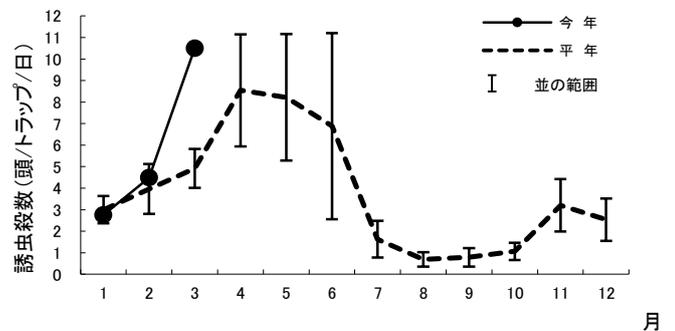


図2 カンシャシクイハマキの誘殺虫数の推移
(フェロモントラップ)

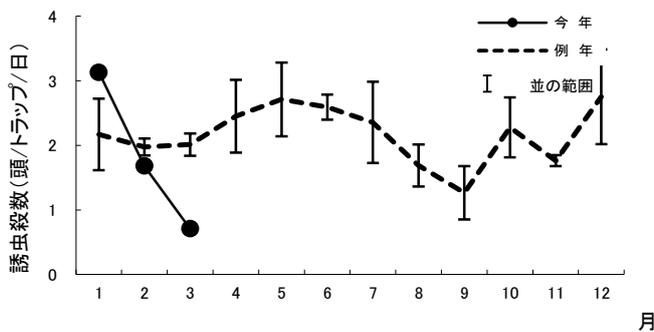


図3 イネヨトウの誘殺虫数の推移
(フェロモントラップ)

5 発生生態および被害

(1) イネヨトウ (図6)

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。
- d 被害ほ場およびイネ科雑草地が発生源となり、ほ場に侵入する。

(2) カンシャシクイハマキ (図7)

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎などに1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす。
- d 被害はほ場に散在的に発生する。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間には散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- (6) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図4 石垣島市におけるイネヨトウの被害ほ場



図5 芯枯茎



図6 イネヨトウ幼虫



図7 カンシャシンクイハマキ老齡幼虫
(上) とイネヨトウ中齡幼虫 (下)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojp/index.html>